

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成23年4月21日(2011.4.21)

【公開番号】特開2009-282431(P2009-282431A)

【公開日】平成21年12月3日(2009.12.3)

【年通号数】公開・登録公報2009-048

【出願番号】特願2008-136388(P2008-136388)

【国際特許分類】

G 09 G	5/377	(2006.01)
G 09 G	5/00	(2006.01)
G 09 G	3/20	(2006.01)
H 04 N	5/66	(2006.01)
H 04 N	5/74	(2006.01)
G 06 F	3/14	(2006.01)
G 06 F	3/041	(2006.01)

【F I】

G 09 G	5/36	5 2 0 M
G 09 G	5/00	5 1 0 H
G 09 G	5/00	5 5 0 C
G 09 G	5/00	5 5 5 D
G 09 G	5/00	5 1 0 B
G 09 G	3/20	6 8 0 C
G 09 G	3/20	6 3 3 K
G 09 G	3/20	6 3 3 P
G 09 G	3/20	6 3 3 G
H 04 N	5/66	D
H 04 N	5/74	Z
G 06 F	3/14	3 1 0 A
G 09 G	5/00	5 3 0 T
G 06 F	3/041	3 2 0 G

【手続補正書】

【提出日】平成23年3月9日(2011.3.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

投射画面に画像を投射表示することが可能なプロジェクタであって、
前記画像の投射表示された前記投射画面に、人間の目視で認識できない投射光にて、コード化された情報を含む特定画像を投射表示することを特徴とするプロジェクタ。

【請求項2】

請求項1に記載のプロジェクタにおいて、
前記投射光は、赤外光であることを特徴とするプロジェクタ。

【請求項3】

投射画面に画像を投射表示することが可能なプロジェクタであって、
前記画像の投射表示された前記投射画面に、人間の目視で認識できないようなタイミン

グで、コード化された情報を含む特定画像を投射表示することを特徴とするプロジェクト。

【請求項 4】

請求項 3 に記載のプロジェクトにおいて、
前記投射画面に前記画像を投射表示する際、n (n は 60 以上) フレームに、1 フレームの割合で、前記特定画像を投射表示することを特徴とするプロジェクト。

【請求項 5】

請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか一項に記載のプロジェクトにおいて、
前記特定画像は、2 次元コードであることを特徴とするプロジェクト。

【請求項 6】

コード化された情報を含む特定画像を人間の目視で認識できないように投射表示するプロジェクトとネットワーク接続可能な画像表示制御装置であって、
前記プロジェクトとの通信を行うネットワークインターフェース部と、
前記特定画像を含む投射画像を撮像して、撮像画像データを出力する撮像装置と、
前記出力された撮像画像データを受け付け、該撮像画像データに前記コード化された情報が含まれているかチェックする CPU と
を備え、
前記 CPU は、前記撮像画像データに前記コード化された情報が含まれている場合に、
前記撮像画像データから前記コード化された情報を取得し、該取得した情報に基づいて、
前記ネットワークインターフェース部を用いて前記プロジェクトとのネットワーク接続を確立することを特徴とする画像表示制御装置。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の画像表示制御装置において、
音声出力部を更に備え、
前記 CPU は、前記撮像画像データから前記コード化された情報を取得した場合に、前記コード化された情報を取得したことを示す確認音を前記音声出力部に出力させることを特徴とする画像表示制御装置。

【請求項 8】

請求項 6 または請求項 7 に記載の画像表示制御装置において、
前記 CPU は、前記プロジェクトと前記ネットワーク接続を確立すると、前記ネットワークインターフェース部を介して、前記画像表示制御装置が備える記憶領域に格納されたコンテンツデータを前記プロジェクトに伝送することを特徴とする画像表示制御装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】プロジェクト及び画像表示制御装置